

学校だより 令和4年度 10月号

NO.6



のびる ほどっ子!

令和4年9月30日

横浜市立保土ヶ谷小学校

学校長 小川 克之



ほっとな未来へ 3C!

「人生は敗者復活戦」

学校長 小川 克之

夏休みが終わってから、およそ1か月経ちました。9月に入ってから日中は30℃を超える暑い日もありましたが、朝晩は気温も下がり、過ごしやすくなってきました。スーパーマーケットの店先も、ぶどうやなし、栗やさつまいも、サンマ等が並べられ、“食欲の秋”を感じる季節になりました。

夏休み中に行われた全国高校野球選手権大会は、仙台育英学園高校が優勝し、大優勝旗が白河の関を初めて越えました。母校を率いて優勝を成し遂げた須江 航（すえ わたる）監督の優勝インタビューにも心打たれましたが、その須江監督は「人生は敗者復活戦」と心に抱きながら根気よく指導を続け、チームを頂点に導いたそうです。須江監督自身、高校時代野球部に所属しましたが1試合も試合に出たことがなく、高校2年生の時に学生コーチを任せられ、大学でもマネージャーとして選手を支えていたそうです。だからこそ、レギュラーに選ばれない、試合に出られない選手の気持ちを誰よりも理解することができたのかもしれない。

1年半ほど前に本校に来られた、サッカー元日本代表の石川直宏さんの「サッカーで楽しい経験をしたのは20%くらい、あとの80%はけがをして入院したり、試合に出られなかったり苦しい経験ばかりでした。」という言葉思い出しました。日本代表にも選ばれ、ピッチを縦横無尽に走り、活躍をしていた石川選手でさえも、試合に負けた後たったひとりでシュート練習をしていたこと、けがをして入院中はテレビでのサッカー中継はつらくて見るができなかったこと・・・そんな苦しい経験を乗り越え、人一倍いや二倍、三倍も練習して再度ピッチに立ち、多くのサポーターから声援をもらった時の感動が忘れられないと仰っていました。

確かにサッカーでも野球でも、スポットライトを浴びる選手はほんの一部ですし、勝ち続けるのは至難の業です。夏の高校野球でも全国の頂点に立つ学校は1校だけです。つまり残りの3781校(3546チーム)は試合に負けて涙を吞んでいます。つまり優勝できなかったすべてのチームが「敗者」となります。しかし試合に負けたことから学ぶことはきっとあるはずで、負けたことは悔しい、でもなぜ試合に負けたのか、勝つためにどのような練習をするのかをはっきりさせて、次に生かすことが大切だと思います。

人生も全てが順風満帆にいくとは限りません。途中で壁にぶつかったり、悔しい思いをしたりすることもあるかもしれません。正に「人生は敗者復活戦」と言えるかもしれません。しかし経験したことは決して無駄なことではないはずで、ほどっこたちにとっても、これからいろいろなことを経験しながら成長していくはずで、試合に負けたり、失敗したり、悔しい思いをしたりしても、その経験をばねにして前向きに進んでいってほしいと願っています。